



元気っ子

No.292 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

カメムシが多く発生した年は雪が沢山降り寒くなると聞いたことがあります。どうい理由からこんな話が出てきたのかご存知の方がおられましたら是非教えて下さい。

さて、先日の職員会議でひよこ組の先生が体験したエピソードを話してくれました。土曜保育のお集まりでの活動選択の際に色々な意見が出たそうです。その時この先生が、「ひよこ組の担任をしているとなかなか遠くへお散歩にいけないからポキポキ広場に行きたい」と話したそうです。子どもたちは、「自分たちは園庭や西の広場はいつでも遊べるから、今日は先生が行きたいポキポキ広場に行こう」と話をまとめてくれたそうです。

集団において、いつも自分の好きなこと、やりたいことだけを自由にできるということはありません。何かをみんなで一斉にやるとなると、当然やりたくないのにやらなくてはいけない場面がでてきます。これを我慢して乗り越える力というのは無意味なものではありません。ですが、この我慢する心というのが自律なのか、他律なのかがとても重要になります。

今回のエピソードでは、子どもたちは園庭や西の広場で遊びたいという気持ちを自分自身で律しています。他から働きかける力によって我慢を強いられているのではないのです。日々の保育の中で大切にしている自律心が育ってきていることが分かるお話でした。

面白そうだけ行ってはいけないところに「行くな」と言われていけない子どもではなく、面白そうだけ行ってはいけないところには行かない子どもを育てていくことが、小学校中学校での一斉活動や授業時間にきちんと座っているということへの耐性を身に付ける一番の方法だと思います。

元気っ子8月号でも書きましたが、「トイレに行く時間だよ、手を洗いなさい、静かにしなさい」と言って育てた子どもが、保育園では出来ていたのに小学校に行って言われなくなったらお漏らしをしたり、手洗いを忘れて、人の話が聞けなくなったという、とある保育園のエピソードを紹介させて頂きました。これが「トイレに行きたいから行く、手を洗わないと気持ち悪いから洗う、静かに聞かないと大切な話が聞こえないから静かにする」という心が自律です。

就学前にこういった自律心や感情抑制力を育んでおく必要があるのには、「脳の敏感期」に関する研究のデータが大きな理由の一つです。先月の元気っ子でも触れていますが、感情抑制力や社会性、象徴機能といったこれから先の世の中で社会に求められるチカラのほとんどについての敏感期は就学前にピークを迎えています。つまり就学前の保育期にこういったチカラのトレーニングをしておくことが最も効果的だとされているからです。

また、文部科学省も今のままの教育システムでは未来を担う子どもの育ちが不十分だとし、日本国内でもオランダのイェナプランという主体性を育てる教育方法を公立学校が導入する動きが出てきています。これから先の時代、子どもたちに必要なチカラを育てる環境について、大人がいかに見通しをもてるかがとても大切になると思います。